

大江医家史料館(中津市) 完成し公開

中津藩医の大江雲沢の旧宅が市に寄贈され、本年七月に壁のぬりかえ等の工事が終り、公開にいたつた。そこで当学会評議員の川嶌真人先生のご案内で九月二十三日訪れることができた。この史料館は村上医家史料館とともに中津の医学史を語る双璧をなすもので、村上医家史料館が町屋風であるにくらべ、大江医家史料館は白亜の屋敷風である。

九州ではじめての解剖を行った村上玄水の墓がある東林禅寺の並びに、この大江旧宅が存在するのも因縁めいている。事実、大江家へ村上家より興入れされた方もおられるとのことであった。

明治になって大江雲沢が中心となって中津に医学校が造られたが、雲沢がどのような医師であったか、もうひとつ判然としなかった。それを川嶌真人先生が雲沢の著作に書きこまれた医訓を発見し、さらに華岡青洲の画像(春林軒皆伝の証)も発掘された。また同家に伝わった吉原流の正骨に関する新資料も見出され、蒲原宏理理事長と共同発表(本年の第一〇五回学会総会)され、日本整形外科前史に輝かしい一頁が加えられた。これらの現物資料を拝見でき、うるところは大であった。

また村上医家の方には三浦梅園と根来東叔の「人身連骨眞形図」との関係、佐賀鍋島藩より早かった辛島正庵の種痘の業績など興味つきない展示がなされている。

なお、大江家のうら庭に「薬園」再建作業がすすめられ数年後にはマンダラゲ等が咲きほこる姿となる由であった。

二年後には中津市で川嶌真人会長の下に一〇七回学会総会が開かれる。今から中津の村上、大江両史料館他を見学する予定をたてられるよう会員各位におすすめしたい。

(中西 淳朗)

***** 介 *****

松木 明知 編

『日本牛痘種痘史文献目録』

一九九六年(平成八年)はエドワード・ジェンナーが牛痘種痘法を発見してから二〇〇年になる。日本医史学会ではこれを記念して『日本牛痘接種関連文献目録』を編集した。今回出版された松木明知編『日本牛痘種痘史文献目録』は医史学会編の文献目録と大いに異なっている。

収録文献数は、英文四編を含め、約二三〇編あり、必要と思われる文献には注を付けている。注では「富山において藩医横地元丈、酒井忠が種痘の普及に尽力したことを記す」と文献の内容を紹介したり、「長崎・京都・大阪における種痘法の歴史について詳述している好論文である」と批評したりしている。